

- | |
|---|
| 1. 特に効果的であり改善に資した事例
B. 円滑な学位授与の促進
②厳格な成績基準と評価基準の設定や学位授与プロセスの明確化 |
|---|

②厳格な成績基準と評価基準の設定や学位授与プロセスの明確化

《人社系》

●早稲田大学法学研究科

「法学研究と法律実務の統合をめざして」の事例

(具体的に何を実施したのか)

本研究科は、すでにMD一貫性を導入し、博士論文執筆の行程を明確化していたが、さらにそれを修士論文執筆の段階から細分化・ステップ化し、1. 修士論文計画書提出、2. 修士論文中間報告会、3. 修士論文完成、4. 博士論文計画報告会、5. 博士論文計画書提出、6. 博士論文中間報告会、7. 博士論文最終報告会、8. 博士論文提出、という形で、わが国の法学研究科において初となる一貫したコースワーク制を敷いた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

学生にコースワークの内容を周知徹底させることはもちろん、教員においても趣旨をきちんと理解してもらったうえで、研究指導を行うようにした。上記の報告会においては、専門の教員・学生だけではなく、他の専攻の教員・学生も参加を募り、公開性・平等性を担保した。報告会の内容と審査内容を文書化し、博士論文受理の段階で、博士論文提出資格審査を行うこととした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

従来、どのような順序・ステップで博士論文を執筆すればよいのか、学生には皆目見当がつかなかったところ、博士論文執筆の行程が明らかになったことで、学生に励みが生まれ、課程博士号取得者数が急速に伸びている現状にある。プログラム終了年度において9名であったところ、本年度は2桁に増加した。今後も確実に博士号取得者の増加が見込まれる。

●関西学院大学社会学研究科社会学専攻

「社会の幸福に資するソーシャルリサーチ教育」の事例

(具体的に何を実施したのか)

以前から採用していた博士学位キャンディデート制度を、後期課程三年間での博士論文提出を可能にすべく制度化・体系化・厳格化することによって、後期課程在籍生が学位取得に向けて計画的に自身の研究に専念できる指導体制を整えた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

従来の制度ではキャンディデート取得後の指導体制が必ずしも制度化されていなかった点に鑑み、キャンディデート取得後のできるかぎりはやい時点で論文提出が果たせるように、キャンディデート取得後の研究状況を把握することを機関として目指した。具体的には、平成20年度より、必要に応じてキャンディデート取得に対して教務・学生正副委員に

1. 特に効果的であり改善に資した事例

B. 円滑な学位授与の促進

②厳格な成績基準と評価基準の設定や学位授与プロセスの明確化

よる面談を実施した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

博士キャンディデートの制度化・体系化・厳格化を実施して以降、博士課程在籍者による学位取得は計画的かつ円滑に進捗していることが、博士学位取得者数からも確認できる。

(博士学位取得者数：平成 19 年度 3 名、平成 20 年度 3 名、平成 21 年度 7 名、平成 22 年度 5 名)

《医療系》

●新潟大学医歯学総合研究科口腔生命科学専攻

「プロジェクト所属による大学院教育の実質化」の事例

(具体的に何を実施したのか)

これまで各臨床系教育分野では専門診療科毎に臨床技能向上のためのプログラムが存在していたが、必ずしも明文化され、公表されていなかった。そこで、各年次及び大学院修了時の臨床技能の到達目標、到達のための方策、評価方法を明示した段階的な臨床コースワークプログラムを作成し、大学院教育開発センターでブラッシュアップ・改善し、印刷物、ホームページ上で公表し、学生に周知させると共に、教員の大学院教育への意識改善を行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

臨床技能の到達目標、到達のための方策、評価方法を明示したパンフレットを作成するにあたり、各教育研究分野から提出されたプログラムを大学院教育センターでブラッシュアップを行う際、教員からのヒアリング、教授会での議論を行うことにより、教育課程編成に専攻所属教員が積極的に関与できる環境作りを行った。また、歯科は口腔という狭い領域を対象にしており、視聴覚教材の開発が学習の補助、臨床技能の向上に効果的であるので、先端的な歯科治療技術および新科目である基礎・臨床連続講義のデジタルコンテンツ化を進め、ホームページ上で公開した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

臨床技能修得・向上が不可欠な高度専門医療職業人を目指す学生にステップ毎の到達目標の周知ができ、また臨床技能のスキルアップおよび専門医資格修得までのプロセスの明確化ができた。また、視聴覚教材の整備により、自学自習のための環境整備を行い、学習効率の向上に繋がった。